

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000262		
法人名	株式会社リーガル不動産		
事業所名	リーガテラス京都洛西(福の里)		
所在地	京都府京都市西京区大枝中山町3-3		
自己評価作成日	令和3年2月18日	評価結果市町村受理日	令和3年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2694000262-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症のある入居者様が家庭的な環境の下、できることを活かしその方らしい生活を継続できるサポートをしています。毎日1日の中で配置要件以上の職員が出勤しており手厚い介護を提供しています。
 感染対策の研修や具体的対策となるマニュアル作成を完成させ実践しています。
 感染対策のため面会制限があり不自由をおかけしているからこそ、施設からご家族様への連絡を密にしています。医療連携体制も大切にしています。
 緩やかに老いていく中で当グループホームで看取りを希望されることも多く、住み慣れた環境にご家族様に来ていただき安らかに最期を迎えることができるようサポートさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その人らしい暮らしを大切に本人の思いや得意な事、生活リズムや習慣に合わせた支援に努めています。コロナ禍で地域との交流や外出等が難しい状況ですが、天気の良い日にはできるだけ散歩に出掛けその際出会った小学生に声を掛けたり、近隣の方に挨拶し、暖かい日には玄関先に椅子を出してお茶を飲む事もあります。また買い物を楽しんでもらうため地域の移動コンビニに来てもらい好きな物を買ってもらう等の支援も行っています。医療においては協力医による往診や訪問看護による健康管理の他、24時間連絡可能な体制で日頃から相談しやすく随時の往診や訪問もあり、また管理者が看護師のため医療との連携もスムーズに図られています。重度化した場合の看取り支援についても家族の思いに添って医療と連携しながらホームで最期まで過ごせるよう支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍においてボランティア訪問受け入れはできていない。美容室オーナーと感染対策について話し合いをした上で利用している。	法人の理念を下にホーム独自の理念を掲げており、玄関の目に付く場所に掲示し意識付けを行い、新しく入る利用者への説明や職員が入る際は面接時から話をしています。職員は日々やカンファレンスの際にその人らしい暮らしとなっているかを話し合い介護計画にもあげながら利用者にとって安心に繋がる支援に取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	外出による買い物はできていない。移動式コンビニによる買い物を実施し、久しぶりにお金を使った買い物をされイキイキとされている姿があった。	コロナ禍のため地域との交流や外出が難しい状況が続いていますが、行事の際の食材は地域の店を利用し、散歩に出掛けの際に小学生へ声掛けをしたり、近所の方に挨拶をしています。また利用者に買物をしてもらうため地域の移動式コンビニを取り入れ買物を楽しんでもらっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍もあり地域との交流も減り認知症の人の理解や支援の方法を活かすことはできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回集合開催ができなくなってからも地域包括センターの職員、認知症家族の会、入居者ご家族様と書面開催にて取り組みや活動報告をしご意見をいただいている。	隔月に開催の会議は今年度はコロナ禍のため書面で行っていましたが、直近の会議は集まって開催されています。家族や認知症家族の会会長、福祉用具の業者の方、地域包括支援センター職員の参加を得ており、自治会長は今回欠席でしたがメンバーとなっています。利用者の状況や事故、ホームの活動、感染症対策についての報告を行い参加者と意見交換を行っています。ホームの現状把握をもらったり他施設での感染症対策の情報を聞く等意見を活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政へは事故報告書および運営推進会議議事録を持参している。今後開催される地域包括勉強会もWEB参加を予定している。	書類の提出等があれば行政の窓口直接向き、不明な点があれば電話で聞いています。地域ケア会議は現在ウェブで開催され参加したり、感染症に関しても物品等の配布を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的にカンファレンスや勉強会を実施。不適切なケアになっていないか職員同士でも注意し合い予防に努めている。玄関の施錠は建物設計上実施しているが、入居者様の外出希望時は柔軟に対応している。	身体拘束についての研修は年間2回以上行うと共に虐待の芽チェックシートを年に2回行っていきます。身体拘束適正化委員会も行い内容を職員に周知しています。言葉による行動制止や安全上のセンサーの使用はユニット会議で対応や正しい使用について話し合っています。ユニット入口は開いています。玄関は施錠しており、外に行きたい様子があれば一緒に付き添い散歩に行くなど気分転換を図ってもらっています。	

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修、虐待の芽チェックリストを活用している。定期的にカンファレンスも実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用しているご入居者がおられ、ご本人、後見人、ご家族とともに情報共有し生活を支えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、料金の改定時、退去時にはご家族に対し書面で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者やご家族様からのご意見、ご要望をお聞きしたときは管理者へ報告しユニット会議で検討しご希望に添えるように努めている。	日々の中で利用者から外出希望やお寿司を食べたい等の要望があれば少し散歩に出たり、行事の際に出前を取る事もあります。家族には毎月職員が日頃の様子や身体的な状況についての手紙や写真の送付、ニュースレターを発行し、電話や訪問時、運営推進会議の中で意見を聞いています。コロナ禍での面会については協力を得ながら玄関でガラス越しに顔を見てもらったり話が出来るよう携帯電話を使用しながら面会してもらっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回リーダー会を行いリーダーや職員から意見や提案を聞く機会を設けており、内容を検討し反映させている。	毎月リーダー会議とフロア会議があり意見を出し話し合い、欠席する場合は事前に意見を聞いています。フロアによっては物品管理や食事発注等リーダーが中心に行っていた事を職員が担えるよう業務分担について話し合ったり、委員会を通して勉強会に繋げています。管理者による面談が年に2回にあり目標にそって話をする中で意見を聞き、達成感を持てるよう具体的に話をしたり、またその他相談があれば随時の面談も行っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者より報告し改善に向け努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所にてクレジットシステムを活用している。施設内にて勉強会、研修会を実施しスキルアップを図っている。実践者研修・管理者研修の受講を積極的に行っている。		

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議に参加し交流を図っている。 毎月地域包括での情報交換をメールで実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	細やかなアセスメントを行いご本人の困りごとやご要望を把握し安心していただけるように寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から相談があった場合は、話を伺い自分だけでは返答しかねる内容の場合は施設長に報告し不安等解決できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族や家族の意向や困りごとをしっかりと聞きした上で入所後必要と思われるサービスを検討提案して支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様から知恵をいただいたり家事と一緒にいっしょにお互いに支え合う関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の面会時にご本人の想いや様子をお伝えし共有した上でご家族からも働きかけて下さり、共にご本人を支えていくことができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の影響もあり以前ほど「いつでも、自由に」面会や外食が難しくなっているが、お友達や加増様にお電話やお手紙などで関係継続を図っている。	コロナ禍のため面会や外出が難しい状況となっており、以前であれば友人等の面会や家族と自宅に帰ったり外食に行く方もいました。現在は友人や家族からの電話があった際は取り次ぎをしたり、年賀状の希望があれば家族と連携しながら出してもらい、届いた場合は一緒に読む等の支援を行っています。	

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員の声かけにより入居者間同士が会話が弾むよう話題提供したり、レクリエーションを通じて入居者様同士が関わり合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後家族様が来訪されることはあるが経過フォローまではできていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画の見直し時ご本人にお伺いしたり普段からご本人との会話の中でニーズを聞き取るようにしている。	併設施設からのスムーズな入居もありますが、入居前にその方が過ごしている場所へ出向き、本人や家族、関係者から生活歴や趣味、暮らしに向けての思い、身体状況等を聞いて情報を得ています。入居後は関わりの中で得られた情報はケア記録にまとめ、把握が困難な場合は表情を見たり家族にも電話等で聞きながらカンファレンスで本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族、ご本人からの聞き取りをもとに把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況を記録し情報共有を行い把握できるよう努めている。そのほか連絡帳や口頭での申し送りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に御本人、ご家族と面談や電話で援助内容や生活課題の意見を求めている。また、医療関係者とも往診時に意見を求め指導や助言を受け計画書に反映させている。	本人の生活全体の意向や介護サービスに対する意向、家族の意向、アセスメントを基に介護計画を作成し、初回は約1か月、2回目は3か月、その後はその方に合わせて3～6か月で見直しをしています。見直しの際にはモニタリングを行い再アセスメントし、サービス担当者会議を開催しています。家族の意向の確認と必要に応じて医師や看護師、歯科医等の意見を計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに個々のプランを貼付し計画を実践できているか記録に残し介護計画の見直しに活かしている。		

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診時の付き添いや通院時のバイタルチェック表の作成などご本人や家族様の希望に応じ対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域との関わりは減少しているがなじみの理美容の利用、新聞などを用い情報を収集し豊かな暮らしを実現している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回かかりつけ医に往診あり、健康管理や必要な薬の処方。またほかの病院と連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望を入居時に聞いており、継続している方は月1回往診を受けています。ホームの協力医は月に2回往診があり、週に1回訪問看護師による健康管理を受け、共に24時間連絡可能で協力医の随時の往診があり、訪問看護師にも相談しやすい体制です。また管理者が看護師のためスムーズな医療連携が図られています。専門医への受診は家族対応で、希望に応じてほとんどの方が歯科往診を受け、また現在は中止していますが訪問マッサージを受けている方もいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護による健康チェックを受け医療のこと、気になることは相談し記録に残している。日々の気になることは看護師である施設長にも相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関を含め市域の病院と連携を密にしている。入院時には介護サマリーなどを用いて情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずはアドバンスケアについて話し合いを持ち、その後終末期に向けた方針を十分な説明をし同意をいただいている。またかかりつけ医、訪問看護師、ご家族様と共有し協力しながら支援できている。	入居時に終末期の話し合いや方針を説明し、実際に傾眠が強くなってきたり食事が摂れなくなってきた場合は、医師と家族、ホームの三者間で話し合いの場を持ち、家族の意向を聞きながら医師から状態の説明があり今後の方針を決めています。ホームでの支援希望が多く、ホームで最期を迎えられるよう話し合いを重ね、家族にも協力を得ながら支援をしています。看取りについて訪問看護師に研修を行ってもらい、支援の中でアドバイスを得ながら取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の研修や説明を行っている。マニュアル化し備えている。また、施設内にAED設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。消防署の方に来設いただき実施した。内部研修を行いマニュアルの確認。	年に2回昼夜想定で消防訓練を行い、直近の訓練では感染症対策を行いながら消防署に立会ってもらい、通報や消火器、利用者も一緒に避難訓練を行っています。消防署が斜め前にあり避難方法のアドバイスをもらい、運営推進会議時には訓練の報告を行っています。備蓄は法人全体で検討中ですが災害対策用自販機の設置や食事3日分の確保がされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重したお声掛けを心掛けている。職員の中に配慮に欠けている場合もあり引き続き勉強会等で指導、改善していきたい。	接遇マナーや認知症等の研修やチェックリストを年に2回行っています。丁寧な対応を基本とし、利用者の個性や職員との関係性等に配慮し、伝わりやすい言葉掛けに努めています。不適切な場面があれば状況を確認し話し合ったり、チェックリストの結果をリーダーに伝え改善に繋げています。入室時のノックや排泄介助の際の声のトーンにも配慮し、また希望があれば同性介助にも努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か物事をするときは必ず入居者様の意向を伺い、伝えやすい雰囲気作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様本位を念頭に置き、希望に沿った支援を目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出以外でも更衣時、着たい服を選んでいただいたり理美容で髪染めをされたり個々の身だしなみを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けの工夫などで目でも楽しんでいただき呱呱に応じた食事形態で提供している。メニューを説明し食事を楽めるよう支援している。また食器洗いや食器拭きを手伝っていただいている。	食事は出来上がった物が届き温めて提供し、ご飯と汁物はホームで作り可能な方に盛り付けや後片付け等に携わってもらっています。旬の物や暦の上での行事食への配慮、企画食があり、また行事に合わせ業者に食材を変更してもらい節分の日には利用者に巻き寿司を巻いてもらったり、ホットプレートでお好み焼きや焼きそばをする等工夫しています。また家族からもらった野菜で調理したり、おやつの手作りも行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	小分けにして召し上がっていただいたり、お茶が苦手な方は自身の好きな飲み物で水分摂取をしていただいている。		

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きをされる方にも磨き残しが無いか確認したり仕上げ磨きをすることがある。訪問歯科と連携しケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録から個々の排泄パターンや行動でのサインを見つけ適宜トイレ介助を行い失禁が少なくなった方もおられる。	排泄は自立している方もおり、必要な方については排泄記録を基にパターンの把握を行い、個々にトイレへの声掛けや誘導をしています。日中はトイレでの排泄を基本とし夜間はトイレ誘導やおむつへの変更等一人ひとりに合った支援を行っており、排泄用品の選択や支援方法についてはフロア会議で話し合っています。退院後は元の布の下着に戻れるよう徐々に支援し、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、体操や水分摂取に努めている。運動ができない方へのアプローチが課題であったが家族様の協力のもと野菜ジュースやヨーグルト、プルーンなど差し入れてくださり便通改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	シフトの都合で曜日や時間を決めていますがご希望があれば決められた日でなくても入っていただいている。	入浴は週に2回支援し一人ひとりのペースに合わせ、見守りで入ってもらったり、長風呂が好きな方にはゆっくり入ってもらっています。湯は一人ずつ入れ替え入浴剤で柚子湯をしたり、全利用者好みのシャンプーや石鹸を持参しています。入浴拒否のある方には声掛けを工夫しながら次の日にする等無理の無い入浴に繋げています。また車椅子利用の方でも対応可能な機械浴もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の希望、体調に合わせて休息を取っていただいている。日中、活動していただいたり、足浴やそばにすることで安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報をファイリングし職員全員が理解できるようにしている。管理ミスが起きないようダブルチェック体制にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じて概ねできている。		

リーガテラス京都洛西(福の里)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響で外出がままならない状況である。施設敷地内で外気浴を行って気分転換を図っていただいている。	コロナ禍の中外出が難しい状況ですが、天気の良い日に散歩に少し出たり、暖かい日には駐車場に椅子を出してお茶を飲んだり、花の水やりを行う等外気浴や気分転換を図っています。また少人数でドライブで紅葉を観に出掛けたり、移動コンビニが来た際には買物を楽しんでもらっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	地域支援で移動販売をされているコンビニエンスストアと連携し自分で品物を選び購入し支払いをする体験をしていただいた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自発的に希望される方は少ないが職員の声掛けにて希望される方はその都度支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調管理を行い適温にしている。冬場は加湿器を使用し湿度を保っている。壁紙も季節に応じたものを入居者様と一緒に創作している。	施設内に初詣用の鳥居を飾ったり、毎月季節に合わせ利用者と一緒に作成した作品や季節毎の飾り付けを行い季節を感じてもらっています。ソファを置いているユニットもあり、テーブルの配置は利用者の相性を考慮すると共にパネルの導入や対面にならないよう感染症予防にも努めています。また空気清浄加湿器を置き、常に換気を行い温湿度計の確認や利用者の体感を聞きながら調整し、掃除は可能な利用者にも手伝ってもらいながら行い居心地良い空間作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々で自分の席を決められているが気の合う方と話したいときは自由に移動されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真などを置き我が家と思えるように環境作りをしている。	居室にはトイレと流し台があり、掃除は毎朝行い、流し台ではお茶を飲んだコップを洗う方もいます。入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう伝え、棚や椅子、座卓、大切にしている仏壇や家族の写真、ぬいぐるみを持参し配置は利用者と家族で行っています。また絨毯を敷いて靴を脱いで過ごす方や趣味の裁縫道具で針子をしたり、折紙作品を飾ったり、居室で日記を書く方や自身で新聞を取り読む方もおり、その人らしい居室になるよう努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が認識しやすいように標識や表示を貼っている。個々の予定をカレンダーにしるしを付けるなど個々の自立した生活を目標としている。		